

最近の韓国・中国・台湾経済情勢について

【今週のチェック・ワード】

【「みちびき」について】

世界は制空権ならぬ制宙権を強く意識して、パワーゲームを展開することを意識し始めています。宇宙を制する者は世界を制す、であり、中国本土などは、自国単独で宇宙開発を推進し、着々とその権益を広げているものと思われまます。

これに対して、我が国・日本は米国の庇護の下、制宙権は米国任せといったところがありました。

しかし、こうした一方で、日本でも、カーナビやGPS機能がついた携帯電話の普及によって、人工衛星を使った測位情報は私たちの暮らしに欠かせないものとなってきています。

そして、測位衛星により位置を特定するためには、最低4機の人工衛星から信号を受信する必要がありますが、これまで日本国内の都市部や山間地では、高い建物、山などが障害となって4機の人工衛星からの測位信号が届かないことがあり、測位結果に大きな誤差が出るのが度々ありました。

こうした中、今般、日本政府が主導となり開発、遂行された「準天頂衛星システム・みちびき」は、「準天頂軌道」と言う日本のほぼ天頂（真上）を通る軌道を持つ人工衛星を複数機、組み合わせた衛星システムとなっており、現在、運用中のGPS信号やアメリカが開発を進めている新型のGPS信号とほぼ同一の測位信号を送信することで、日本国内の山間部や都心部の高層ビル街などでも、測位できる場所や時間を広げることができるようになりました。

準天頂衛星システムは、補強信号の送信等により、これまでの数十メートル程度の誤差だったGPSに比べて、1メートル程度、更にはcm級へ測位精度の向上を目指して作られたものです。

普段カーナビを使っている方の中には、現在でも十分実用に耐え得ると思われる方もいるかもしれませんが、「みちびき」と言う衛星測位システムは、カーナビ以外にも、

- * 地図作りや建築作業に欠かせない測量
- * 子供や高齢者の見守りサービス
- * 農業機械等の自動制御
- * 地震や火山の検知
- * 天気予報

など、応用範囲が広がっており、それに伴い精度や信頼性の向上等の高度化が求められていることから、今後、これまでにない位置情報を活かしたサービスも生まれるかもしれません。

そしてまた、これは、日本にとっては、ミサイル防衛やミサイル誘導という、実は安全保障上の目的にも使い得るものであり、日本にとっては大きな財産となると期待されます。

こうしたことから、日本が今般導入した「みちびき」のプロジェクトは多角的な視点から注目していくべきものであると私は考えています。

しかし、こうした日本が米国と連携してミサイル防衛とミサイル誘導のシステム強化を図ることに対しては、中露とも警戒感を示しており、中国本土は、日米の日本海や東シナ海海域・上空近く

で展開される合同軍事演習を懸念したり、韓国に配備された米国のTHAADなどを厳しく批判しています。

そして、ロシアに関しては、プーチン大統領自ら、北方四島問題に関連する形で、「日本の主権下に入れば、これらの島に米軍の基地が置かれる可能性がある。」と述べつつ、日米安保条約が適用される現状では日本への返還は難しいとの認識を示し、制宙権を意識した日米連携を危惧する発言をこの時期に行ってもいます。

上述したような平和利用としての「みちびき」の効果を期待する一方で、中露がこうした警戒感を示していることを私たち、日本の民間人も一応、念頭に置いておく必要があります。

【台湾・中国・その他】

—今週の台湾・中国—

[台湾]

台湾の立法委員など18人は、香港の民主勢力を支援する委員連盟を結成している。

7月1日の香港返還20年に合わせて、香港の民主を守ろうとする活動への支持を表明するなどし、香港との連携を深める方針を示したと見られている。

1997年から数えて、香港返還20年を控え、香港では中国本土による民主勢力への圧迫が強まっているといっても過言ではない。

そして、台湾でも「一つの中国」という原則をそのままは認めないとする姿勢を示す蔡英文政権に対して、中国本土の圧力が増しているとも見られている。

こうした中、この連盟結成は、「民主・自由・人権」という共通の価値観を基にして、香港の民主勢力と台湾が協力し、中国本土の圧力に対抗する狙いがあるとされている。

今後の動向をフォローしたい。

[中国]

米中両国政府が4月の首脳会談で新設を決めた「包括対話」の初会合を6月下旬にワシントンで開くことで調整されている。

北朝鮮問題をはじめ、「外交・安全保障」分野を先行させて実施されると見られている。

そして、中国本土としては、米国との間でこうした公式会議を持つことによって、新しい大国同士の大人の関係を構築し、まずはG-2時代を構築することに注力してくるものと思われる。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 米中関係について
2. タイ情勢について
3. パナマと台湾、中国本土関係について
4. 北朝鮮問題について
5. 中国本土、社会状況について

—今週のニュース—

1. 米中関係について

米国の国防総省は、米空軍の戦略爆撃機と米海軍のミサイル駆逐艦が、南シナ海で合同演習を行

ったとコメントしている。

南シナ海の人工島で軍事拠点化を進める中国本土への牽制と見られている。

北朝鮮問題などを背景として、米中軍事連携の必要性が高まる中、これが如何なる影響をもたらすのか、筆者は気にしている。

フォローしたい。

2. タイ情勢について

タイでは、一部で国王に対する信認が低下しているのではないかと見られている。

こうした中、タイの首都・バンコクの軍事裁判所は、フェイスブックで王室を中傷したなどとして不敬罪に問われた北部・チェンマイ県の男性に対して、禁錮35年の判決を言い渡している。

これには様々な見方、意見があろうが、先ずはタイが今後、統制国家的動きとならぬかについても、注視する必要はあろう。

3. パナマと台湾、中国本土関係について

パナマは、中国本土と国交を結ぶと発表した。

そして、これまで外交関係を結んでいた台湾とは断交するとしている。

これにより、台湾と外交関係を持つ国は20カ国に減ることになる。

4. 北朝鮮問題について

米紙であるウォール・ストリート・ジャーナルは、米国のトランプ政権が北朝鮮の核ミサイル開発を支援する主要なネットワークを壊滅させる戦略の一環として、中国本土政府に対して、約10の中国本土企業、個人に制裁措置を講じるよう要求していると報じている。

また、中国本土政府がこの措置を講じない場合、米国政府が一部の企業、個人に単独制裁を科す方針も伝えていると報道されている。

今後の動向をフォローしたい。

5. 中国本土、社会状況について

中国本土の保険大手である安邦保険集団は、呉会長が、個人的な理由でしばらく職務を履行できなくなったと発表している。

そして、呉会長は当局に連行されたとの情報も入っている。

同社、そして呉会長は共産党指導者の親族との深い関係がこれまでも指摘されており、党大会を控えて、今後の事態の進展に高い関心が集まっている。

今回の事態に関しては、不正腐敗が背景にあるのか？或いは、権力闘争の具として利用されているのか？様々な角度から注視したい。

【韓国】

—今週の韓国—

韓国総合株価指数(KOSPI)は今年に入り世界経済の回復に後押しされ上昇傾向にあったが、ここに来て、更に企業の業績改善と新政権の政策への期待感が加わり、過去最高値を連日更新している。

また、不動産市場も5月9日の大統領選以降、政治の不透明感が解消されたことでソウルのマン

ションを中心に価格が急騰している。

更に、低迷していた国内消費も全般的には、回復の兆しを見せており、雰囲気は少しずつ変わりつつあると、見られている。

米中の狭間で上手に動き、北朝鮮問題も顕在化しなければ、韓国経済は表面的にはこのまま好調を続けるとの見方が出てきている。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 現代自動車、中国本土ビジネスについて
2. 北朝鮮情勢について
3. ポスコ、設備概況について
4. 日朝関係について
5. 経済概況について
6. 無人飛行体発見について
7. 文大統領の政策運営姿勢について
8. 造船受注動向について
9. 金融政策姿勢について
10. 現代自動車の業況について
11. 中韓関係について
12. ICT輸出について
13. 個人債務状況について

—今週のニュース—

1. 現代自動車、中国本土ビジネスについて

I o T時代にあって、自動車の開発の動きも変化してきている。

こうした中、韓国トップの自動車メーカーである現代自動車は、インターネットで車両間、モノ、人を結ぶコネクテッドカーの開発に向け、中国本土のインターネット企業大手である百度と提携をした。

市場の大きい中国本土の百度との提携は意義深いものと思われる。

今後の動向をフォローしたい。

2. 北朝鮮情勢について

北朝鮮はリビアのカダフィ大佐の殺害された様子を見つつ、特に、核・ミサイル開発放棄をした国の末路」強く認識した模様である。

従って、北朝鮮は、おいそれとは核・ミサイル開発放棄をしまい。

こうした中、北朝鮮の国営メディアである朝鮮中央通信は、新型の巡航ミサイルの発射が成功したと伝えている。

そして、金正恩委員長が現地に赴き発射命令を出したとも伝えている。

一方、韓国の情報機関である国家情報院は、

「北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長が米韓による襲撃を恐れて、公開の活動を減らしている。」などとした分析結果を国会の情報委員会所属議員との懇談会で報告している。

筆者は、米韓はもとより中国本土も北朝鮮に圧力を加え始めており、これが北朝鮮には予想以上の圧力となり、この結果として、北朝鮮が慎重になりつつあるとも見ている。

今後の動向をフォローしたい。

3. ポスコ、設備概況について

韓国鉄鋼最大手のポスコは、本年2月から行っていた浦項製鉄所の第3高炉（溶鋳炉）の拡大改修工事を終え、火入れ式を行った。

この、第3高炉は内容積が4,350立方メートルから5,600立方メートルに拡大し、世界で5番目に規模の大きい超大型高炉となった。

また、1日の粗鋼生産量は1万4,000トンに達する。

但し、特殊鋼は、日本勢ほどは強くない。

尚、これにより、ポスコが保有する内容積5,500立方メートル以上の超大型高炉は、世界最大規模の光陽第1高炉（6,000立方メートル）をはじめ5基に増えた。

今後の動向をフォローしたい。

4. 日朝関係について

日本の外務省は、北朝鮮の相次ぐ弾道ミサイル発射を受けて国連安全保障理事会が採択した制裁決議に基づき、新たに加える北朝鮮の資産凍結対象を告示し、今回、資産凍結対象に加えられたのは、ミサイル開発などに関連する北朝鮮の4団体と14個人となり、これらが加わり、資産凍結対象は計58団体・70個人となった。

今後の動向をフォローしたい。

5. 経済概況について

韓国経済は表面的には堅調に推移しているように見えるが雇用環境が悪いなど、一般庶民の景況感はあまり芳しくないようにも映る。

こうした中、本年第1四半期（1～3月）の韓国の総貯蓄率は36.9%で、アジア通貨危機当時の1998年第3四半期の37.2%以来19年ぶりの高水準を記録している。

ご高尚の通り、総貯蓄率は国民の可処分所得総額から最終消費支出を差し引いた部分が占める割合を指し、総貯蓄率の上昇は国民が消費を減らし、貯蓄を増やしていることを意味する。

そして、アジア通貨危機当時の1998年第1四半期の韓国の総貯蓄率は40.6%まで上昇したが、その際の銀行の定期預金金利は17.71%まで上昇し、貯蓄すれば多額の利子が付いた。

しかし、今はその当時とは異なり、輸出が好調で、経済成長率が6四半期ぶりに0%台を超え、定期預金金利も年1.45%にすぎない。

それにも拘わらず、貯蓄が増え、総貯蓄率を押し上げたことに、一般庶民の景気先行き懸念が見え隠れする。

今後の動向をフォローしたい。

6. 無人飛行体発見について

韓国北部の江原道の山中で、墜落したとみられる小型の飛行物体を住民が見つかり、韓国軍が無人機と確認した。

無人機は、北朝鮮のモノと見られ、日本製カメラも搭載されていた模様である。

今後の動向をフォローしたい。

7. 文大統領の政策運営姿勢について

文大統領は、大統領直接選挙を実現させた1987年の「6月民主抗争」から30周年の記念式典で演説し、

「制度としての民主主義が揺らいで後退することはもうない。

私たちの新しい挑戦は、経済における民主主義である。」

とコメント、韓国社会が抱える経済的不平等の解消に向けて本格的に動く姿勢を示しつつ、国民の結集を呼びかけている。

具体的に如何なる政策姿勢を取るのか、特に既得権益層の代表と見られる財閥に対する政策姿勢を注視したい。

8. 造船受注動向について

造船・海運市況を分析する英国のクラークソンによると、本年5月の国別受注実績では、韓国は79万CGT（標準貨物船換算トン数、21隻）を受注し、最多となっている。

尚、中国本土が32万CGT（同17隻）で2位、日本が8万CGT（同3隻）で3位となっている。

今後の動向をフォローしたい。

9. 金融政策姿勢について

中央銀行である韓国銀行の李総裁が、緩和的な金融政策を調整する必要性について初めて言及したと朝鮮日報は伝えている。

韓国銀行は政策金利を段階的に引き下げ、昨年6月に過去最低の年1.25%に下げた後は据え置きを続けているが、景気回復が確かになれば緩和的な金融政策を見直して引き締め動く可能性があることを示唆したことになる。

しかし、一方で個人債務の増加もあり、金利上昇が悪影響を与える危険性もある。

反面、デフレ脱却を意識し、緩やかな金利上昇は必要とも見られている。

今後の動向をフォローしたい。

10. 現代自動車の業況について

韓国のトップ自動車メーカーであり、世界有数の自動車メーカーでもある現代自動車は、同社初の小型スポーツタイプ多目的車（SUV）「コナ（KONA）」の発表会をソウル郊外で開いた。

コナは運転者が十分な視野を確保し、楽に運転できるよう地上高と全高を最適化したことなどが特徴であるとされており、ほかの小型SUVに比べ全高は5センチほど低くなっている。

今後の売れ行きをフォローしたい。

11. 中韓関係について

韓国貿易協会は、中国本土に「韓中自由貿易協定（FTA）貿易促進団」を派遣したと発表している。

中小輸出企業25社からなるこの促進団は、成都、武漢など中西部地域を訪れ輸出商談会を開いた。

やはり、韓国にとって、中国本土は大切な輸出市場であり、政治的な課題を超えて、貿易拡大を図りたい地域であることは間違いない。

引き続き動向をフォローしたい。

1 2. ICT輸出について

韓国政府・未来創造科学部と産業通商資源部は、本年5月の情報通信技術（ICT）分野の輸出額は前年同月対比17.4%増の154億1,000万米ドルとなったと発表した。

これにより、7カ月連続のプラスとなっており、また、5月としては過去最高を記録している。

品目別では、半導体の輸出額が76億3,000万米ドルと前年同月対比56.0%伸び、単月で過去最高を更新している。

今後の動きを注視したい。

1 3. 個人債務状況について

韓国の個人向け融資は5月に急増を示した後、6月はその伸びが鈍化し始めている。

韓国政府が不動産安定策の導入を公言したことで、市場が模様眺めの状態に入ったと見られている。

即ち、金融監督院によると、6月1～9日の銀行による個人向け融資は1日平均で1,000億ウォン未満の伸びに留まっていることが速報値で明らかとなっている。

今後の動きを注視したい。

【トピックス】

私はなかなか中南米を訪問する機会に恵まれません。

こうした中、ゲバラの国で知られる、スペイン語圏の国である「ボリビア多民族国、通称ボリビア」には、私は高い関心を持っています。

まだまだ、経済的には成長が低く、また、日本とは遠い内陸国であることから、日本との直接的な関係を深め、日本にメリットが多くある国とは思いません。

しかし、米国にとっては、地域安定の一つの核になる国でありましょうし、観光資源もある国として私は関心を持つ国であります。

そのボリビアは、南アメリカの共和制国家であります。

国土面積はアメリカ大陸では8番目に、中南米では6番目に、世界的には27番目に大きい国であり、日本の約3.3倍の広さを持つ、国土には恵まれた国であります。

また、かつてはより広大な国土面積を有し太平洋沿岸部にも領土がありましたが、アクレ紛争等の周辺国との戦争に負け続けた為に現在では最大時の半分ほどになり、北と東をブラジル、南をアルゼンチン、南東をパラグアイ、南西をチリ、北西をペルーに囲まれた内陸国となりました。

私は、首都はラパスと認識していましたが、憲法上の首都はスクレとなっているようで、ラパスは、議会をはじめとした政府主要機関があることから、事実上の首都と見なされているようです。

尚、世界最高高度にある首都としても知られています。

また、かつて「黄金の玉座に座る乞食」と形容されたように豊かな天然資源を持つにも拘らず、上述したように、実際には貧しい経済状態が続いており、現在も中南米諸国の中でも貧国の一つと言う不名誉な名称を戴いている国でもあります。

経済を見ると、軸は、鉱業、農業、観光となりましょう。

植民地時代から19世紀末までは金と銀が、20世紀以降は錫がボリビア経済の主軸でありました。

また、石油の輸出も盛んであり、更に2001年に世界最大規模の天然ガス田が発見され、ボリビア経済再生の頼みの綱となっていますが、産出国であるものの、精製能力がなく、最貧国から脱出する為には、経済のステージを少なくとももう一ランク上げなくてはいけないのでありましょう。

しかしながら、その為の資金と技術に乏しいというのが現状のようであります。

また、南部のウユニ塩原には推定540万トンのリチウム（世界埋蔵量の半分以上と見られています。）が埋蔵されていると見積もられていますが、これについてもやはり、それを抽出する技術も資本も持ち合わせていないようです。

農業に目を向けてみると、1952年のボリビア革命以来、サンタクルスを中心とした東部の低地地帯で開墾、農業開発が進み、大豆、サトウキビ、綿花、コーヒー、バナナなどの大規模な輸出用農業が盛んになっており、また北部の熱帯地域ではカカオなどが産出されており、農業に対する期待も高まりつつあります。

観光に目を向けますと、主な観光地としてはティワナクの遺跡や、チチカカ湖、ウユニ塩原、ポトシの鉱山、チェ・ゲバラの戦死したイゲラなどがあり、また、南米諸国の中でも特に物価が低い、ヨーロッパや、カナダ、アメリカ合衆国、日本、イスラエルといった先進国に加えて、韓国や南米諸国のアルゼンチン、ブラジル、チリなどからも多くの観光客がボリビアを訪れ、外貨収入獲得源となっています。

また、アンデス山脈の高山が各国から登山家を引き寄せてもいるようです。

こうしたボリビアを、是非一度、私も訪問してみたいものであります。

[今週の“街角のお話”シリーズ]

先週、お話ししました、私が尊敬する先生から、その著書を戴きました。

正に自然を科学する内容であり、「 $4\pi r^2$ 乗」など、懐かしい数式もあり、更に私が数学を嫌いになった原因である微分・積分なども使ったグラフなどによる説明がなされている本であります。

今、ゆるゆるとその内容を噛み締めながら、読み進んでおりますが、先生の本の冒頭は私にとっては、圧巻でありました。

「自然を科学する為には科学的思考が必要である。

その思考形式は、今現在、大きく三つの体型がある。

即ち、

- * 帰納法的思考 Induction
- * 演繹法的思考 Deduction

そして、

- * 仮説法的思考 Abduction

である。

即ち、

Case(事例)

Result(結果)

Rule(法則)

を基として、

帰納法的思考は、

“個々の具体的な事例・事実から得た結果を基に共通性・普遍性を導出して規則・法則を導く思考過程”

演繹法的思考は、

“前提とする命題から、経験に頼らず論理の法則に従って必然的な結論を導く思考過程”

そして、仮説法的思考は、

“結果と規則から推論して事実を導く思考過程”

であるということを、

Case=ゴリラは哺乳類動物である。

Result=ゴリラは死ぬ。

Rule=哺乳類動物は死ぬ。

という事例を基にして解説、そして、現在の自然科学などでは、この

“仮説法的思考が主流になっている。”

とコメントされた上、更に、

“仮定から論理的に導いた結果が検証されれば真理となる。”

と解かれています。

こうして改めてみると、私の日々の行いは、

「真理であると私自身が信じているものを規則・法則として、世の中の現象を見つめ、その上で結果を予測すること。」

とでもなり、また、上述したやり方に基づけば、

Rule → Case → Result

となり、真理を追究していることにはどうもなりそうにありません。

今一度、深呼吸をして、真理を追究する姿勢をもっと持ちつつ、生きなければならないと思いました。

頭をガツンと殴られた思いです。

引き続き頑張ります。

[英語で一言]

ここでは、英語を母国語としない私が英語を母国語としない多くの人々にも伝わるように、短文、平易な英単語を使って、気になる言葉、出来事を、短歌のように数行で示していくことを毎週トライするものであります。

またまた拙いコーナーの開始ですが、お付き合いください。

Japanese Cuisine=日本料理

日本料理は既に世界でもポピュラーになっています。

また、日本料理は“おもてなし”の心によって支えられているとも言われています。

そもそも、日本料理は、日本列島で生まれ長年にわたって発達した日本独特の料理と言えます。

新鮮な魚介類の持ち味を生かした料理が多く、また、ほとんどが米食とお酒にマッチするように作られています。

そして、材料や調理法に季節感を重んじおり、食器の色、形、材質が様々で、盛り付けにも繊細な気配りが加えられていると言えます。

味は材料そのものの持ち味を生かすようにし、しょうゆ、酒、酢、砂糖などで調理されます。

日本料理は、日本文化の象徴とも言えます。

Japanese Cuisine=日本料理

Japanese Cuisine has been already popular among the people in the world.

And it is also said that Japanese Cuisine is based on the warm heart of OMOTENASHI.

We can say that Japanese Cuisine is unique to the Japanese archipelago where it originated and developed over the centuries.

The majority of Japanese dishes are contrived to accent the natural flavors of fresh and shellfish and almost all are prepared so as to go well with rice and Japanese Sake.

The season of the year is a prime factor in the selection of materials and choice of the manner in which to prepare them.

Utmost care is used in arranging the foods on dishes various colors, shapes and materials.

In seasoning, special efforts are made to enhance the natural flavor of the materials.

Typical seasonings are soy sauce, sake, vinegar and sugar.

Japanese Cuisine can be said to be the symbol of Japanese Culture.

〔主要経済指標〕

1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／1, 133.68（前週対比－11.31）

台湾：1米ドル／30.36ニュー台湾ドル（前週対比－0.25）

日本：1米ドル／111.11円（前週対比－1.01）

中国本土：1米ドル／6.8125人民元（前週対比－0.0135）

2. 株式動向

韓国（ソウル総合指数）：2361.652, 363.57（前週対比－8.15）

台湾（台北加権指数）：10, 156.73（前週対比－.69.05）

日本（日経平均指数）：19, 943.26（前週対比＋34.00）

中国本土（上海B）：3, 132.486（前週対比－17.848）

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光